

未来をつむぐライフマガジン

FREE PAPER

無料

ご自由にお持ち下さい

ボラみみ

2025年 No.263

05・06月号



みんなで学ぼう!



今号のテーマは、「みんなで学ぼう!」。

「学びたい」「教えたい」という気持ちは、人間に本質的に備わった欲求のようです。

神経科学の研究では、学ぶことや教えることが、
脳の報酬系を活性化させることが明らかにされています。

つまり私たち人間は、本能的に学びたくて、
誰かに教えたいという思いを強く抱く存在なのです。
いくつになっても互いに教え学び合い、子どもたちに学ぶ機会を提供すること、
みんながともに等しく学ぶということこそが、
私たち人間の特権であり、喜びそのもののなのかもしれません。

INDEX

2025 5・6

●誰でも先生、誰でも生徒、『サマセミ』 NPO法人アスクネット 一般社団法人アスパシ 毛受 芳高さん	P.02
●勉強を通して自分の夢や願いをかなえてほしい NPO法人東海つばめ学習会 柿本 知樹さん	P.05
●貧困と教育格差	P.07
●つむぐ人	P.08
●第87回 企業の社会貢献活動の現場から	P.09
●あなたの街のボラスポ紹介!	P.09
●CivicTech入門17	P.10
●ボランティア情報	P.11
●ボラみみINFORMATION	P.15



毛受 芳高さん
(NPO法人アスクネット、
一般社団法人アスパシ)
柿本 知樹さん
(NPO法人東海つばめ学習会)

誰でも先生、 誰でも生徒、 『サマセミ』

Interview

NPO法人アスクネット創業者・理事
一般社団法人アスバシ代表理事

毛受 芳高さん



昨年35回目の開催となった「愛知サマーセミナー」(略称「サマセミ」)。「誰でも先生、誰でも生徒」をテーマに掲げ、教えたいことを教え、学びたいことを学ぶこの「夢の学校」には、毎年多くの市民が参加しています。今回は、サマセミで中心的な役割を果たしている毛受芳高さん(アスクネット理事、アスバシ代表理事)に、サマセミの意義や学びの仕組み、その魅力についてお話をお聞きました。



1つひとつの講座がユニークで、 そこにドラマがある

「サマセミ」は、毎年夏休みの期間に開催されていて、ホームページやパンフレットを見ると分かります。たくさんの講座が開かれています。2024年は3日間で979講座でしたが、コロナ禍以前には2000講座ほどあって、さすがに多すぎという状態でした。今は、講座数も落ち着き、これぐらいがちょうどいい数かもしれません。

講師はほとんどがボランティアです。一部、有名人講座として招待している方もいますが、基本的には手弁当でみなさん講座を開いてくれます。そして講座も多種多様です。これだけ講座があると、自分の担当の講座が終わった後、別の講座に生徒として参加する方が多いですね。有名人の方も同じで、講座を終えたら、面白そうだからと言って、別の人の話を聞いてから帰られる人もいます。

そして、サマセミの講座1つひとつには人知れずドラマがあるんです。例えば、ある高校生の男の子が講師をしているマジック講座。彼とはもともと、私が関わって

いる通信制高校の居場所事業で知り合いました。あまり社交的なタイプじゃないけどクリエイティブなことが好きな彼が、自作の手品を披露してくれたことがあったんです。そしてある年のサマセミで、人形浄瑠璃文楽の人間国宝の方が講師を務める体験講座に彼を誘ったところ、文楽の体験以外にも他の講座をいろいろと受けてくれたようで、「来年は自分で講座をやりたいのですが、僕でもできますか?」と言い出したのです。少し驚きましたが、「サマセミは誰でも先生をやれるから、やってみたら?」と促しました。「どうなるかな〜」と様子を見ていたら、本当にマジック講座を実現したのです。講座が終わった後に「何人くらい来たの?」って聞いたら、ニコツとして「30人くらい」って。「すごいね!うまく教えられた?」って聞いたら、「まあ、なんとかできました」って自信をつけた表情で言うわけです。

面白いですね。これがサマセミの醍醐味だと思います。有名な講師の方も、一般の市民や高校生も、誰もが先生であり、そして誰もが生徒である。教える側と学ぶ側が入れ代わることができる場所、それがサマセミなんです。



学校教育の課題 — 固定化された関係と、地域から引き離された子どもたち

学校教育の現場では、先生はいつも先生、生徒はいつも生徒という固定された関係です。でも本当の学びは、もっと流動的で相互作用的なものだと思うのです。

それと、学校って伝聞情報が中心です。先生は「社会では～」などと語りますが、そこにはリアリティが感じられなかったりするわけです。学校は、もともと地域や家庭に埋没していた子どもたちを、引きはがすかのように学校に集めて成立しました。それが行き過ぎて、社会の中で学ぶリアルな社会体験から遠ざかってしまったわけです。私が代表を務める一般社団法人アスパシで取り組んでいるのが、高校生のインターンシップ事業です。これが本当に驚くほど効果がある。高校生の3日間は、大学生の3ヶ月分くらいの効果を持つ、というのが私たちの実感値です。インターンシップでの社会体験で視野が広がり、自信をつけるとその後の行動がガラリと変わることが多い。高校生は社会に入っていく入口としての「進路決定」のタイミングなので、その子の未来へのプラスの影響は計り知れないと感じています。

高校生と大人に同時に学びをもたらす瞬間

私たちのインターンシップのプログラムでは、受け入れ先の企業や団体に勤める大人にインタビューをするメニューがあります。「この仕事のやりがいは何ですか？」と高校生に聞かれると、やっぱり大人たちには、単に「お金のためだけ」とは言いがたいという気持ちが働くんですね。そこで初めて大人たちが、自分の仕事の社会的意義について考え、言葉にする。その言葉に高校生たちは感動したりするわけです。

面白いのは、このとき、インターンシップは高校生だけでなく、受け入れる大人にも学びをもたらすことです。自分の仕事の意義を問われることで、改めてその価値を言語化する機会になる。高校生にとっても、そしてインターンシップ先の大人にとっても、教育的な効果が相互にもたらされる瞬間です。

入れ代わり立ち代わり教え学び合う

大学院生のとき、私は認知科学を学び、人の賢さとは何か、学びとは何かといった研究をしていました。例えば、パフェ好きの女子高生がいたとします。「どここの店のパフェがヤバいんだよ。こんな感じで…」と写真をみせて友達に伝えていたとします。どこにでもある日常の場面だと思いますが、これをもう少し格上げすれば「パフェ講座」になる。めっちゃうまいパフェの攻略法を教えます、みたいな感じで。

それを受けて、今度は聞いていた相手が「パフェもいいけど、美味しい味噌煮込みうどんの店を知っているよ」と返したりする。パフェと味噌煮込みうどんの話で盛り上がって、「じゃあ今度一緒に味噌煮込みうどんとパフェを食べに行こう」という展開になったりする。教える立場と学ぶ立場が入れ代わり立ち代わり生まれてい





ますよね。この対話によってお互いの情報が共有され、お互いが持つ情報がリッチになっていく。うどんとパフェについてのそのグループの「賢さ」が形成されるわけです。こうなれば「教育」とも言えますよね。

実はこれこそが、私が大学院時代に研究していたテーマであり、複数の人間による問題解決です。もう亡くなられてしまいましたが、有名な認知科学者の三宅なほみ先生の有名な研究に、ミシンを使った研究があります。実際のミシンを置いて、ミシンが縫う仕組みを調べるよう課題を与えます。そのとき、一人で作業する場合と、二人で作業する場合を比較したところ、二人で「あーでもない、こーでもない」とぶつぶつ言いながら、お互いの行動を観察し合うほうが、理解度が上がることが示されました。一人が「これ、こうじゃないのか?」とミシンを回しながら動かしている動作をしているのを、見ているもう一人が突っ込んだり示唆を与えたりすると、理解が深まっていくのです。

つまり、集団の「賢さ」とは、個人の能力の総和としてははかれるものではなく、どれだけ人と人がコミュニケーションしているかによるところが大きい。この視点でサマセミをみれば、自分が知ったこと、理解したことを伝える行為＝教える人とそれを学ぶ人が、立場を入れ代わり立ち代わり教え、学び合っているわけで、それがまさに「教育」であり「学び」だと思うんです。



サマセミを学校や社会に埋め込む

サマセミの実行委員には現役の教員もいて、講座数の発掘の目標もあるから、その教員も何か講座をやることになる。受験対策のような講座を開講する教員もいれば、自分の趣味の音楽やレゴの講座を開講する教員もいる。それでいいんです。本当にサマセミの講座は多様だからこそ、1つひとつの講座にドラマがあり、面白いんです。

私は、サマセミは「日常のご飯にかけるふりかけみたいなもの」とよく言っています。カロリーを取るためにご飯は欠かせませんが、ご飯だけでは無味乾燥だ。ふりかけをかけると美味しく食べられますが、だからといって、ふりかけだけ食べる人はいませんよね。学びを促進するための意味付けや目標を発見するための仕掛け、それがサマセミだと思っています。

とするならば、サマセミ的な学びは夏の1回のイベントだけでいいのかというと、そんなことはないわけで、学校内でも、地域でも、そういった場がもっとあればいいんじゃないか、と思っています。それが授業の中の「総合探究」だったり、高校生のインターンシップだったりします。サマセミ的学び合いの教育を学校や社会の中に埋め込んでいくこと、全国津々浦々で広げることが私たちの使命だと思っています。



勉強を通して自分の夢や願いを かなえてほしい

NPO法人東海つばめ学習会
柿本 知樹さん

学びたくても学べない子どもたち

私は、関西学院大学在学中に児童自立支援施設へ実習に行く機会がありました。どんな子どもたちがいるのか想像もつかず、前向きじゃない子どもたちがたくさんいるのかなと思っていました。そこで中学生で働きに出され保護された境遇の16歳の女の子と出会いました。彼女は「私と同じような境遇の子どもたちが施設へ次々と入ってくる。そういう子たちを救っていきたい。私は施設で救われたから気持ちがわかるんだ」と将来の夢を私に話してくれました。それを聞いた時にびっくりしたと同時にもったいなさを感じました。すぐ前向きで、社会でパフォーマンスを発揮できそうな子が、この子は何も悪くないのに振り回されて、可能性を狭められていることをもったいないと思いました。

その出会いがあって、具体的な活動は思いつきませんでしたが、子どもの支援をしたいと思うようになりました。それから1年ぐらいしたところに、「無料塾をやろう」と誘いを受けて、自分のやりたかったことはこれだと思い、5人の仲間と「NPO法人阪神つばめ学習会」を立ち上げに関わり、大学を卒業するまで活動を続けました。

就職で愛知県春日井市に戻って1年が経ち会社員としても落ち着いた7年前（2018年4月1日）に、春日井市の勝川で東海つばめ学習会の活動を開始しました。無料塾の立ち上げの経験はあったものの、その時は5人の仲間がいました。今回は1人での立ち上げで、すごく不安もありましたが、それでもやってみたいという気持ちが強くて、準備を進めていくうちに「やらない」と



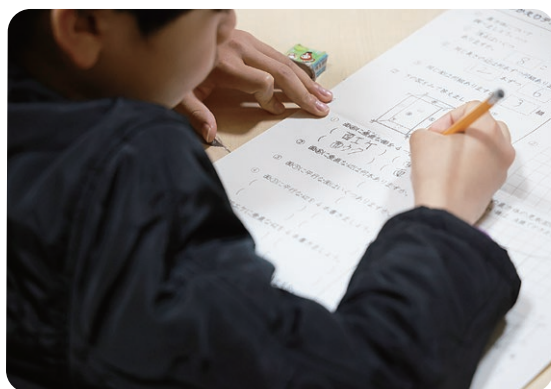
いう選択肢が消えていきました。だからと言って肩肘張ってやっているわけでもなく、会社員としての本業もあるので、生活の一部、ライフワークの一部としてやっています。

優先すべきは私生活が、 ボランティアの基本

学習会を始める際にネットでボランティアを募集したところすぐに応募があり、最初の開催から5、6人の講師が来てくれました。そのうちの1人が今も法人の理事に入って7年間一緒にやってくれています。活動を始めたとき私は24歳で若い世代のカラーが出ていたのか20代の応募が多くありました。年数が経つにつれて年齢層の高い方も増えていき、学生や社会人、リタイヤした方とさまざまな人たちが活動に参加しています。

現在、教室は15か所で開催しています。運営も教える人も完全無償のボランティアで行っていますが、ボランティアで勉強を教えたいという人は結構多くて、教室全体でボランティア登録は300人を超えていると思います。ボランティアは、毎週来る人もいれば、月に1度という人もいます。社会人であれば仕事があり、学生であればテストもあります。優先すべきは私生活で、その余暇でボランティアをするものなので、行きたい時に、好きな時に手を挙げて来てくださいというスタイルをとっています。

生徒は予約システムで2か月前から予約を受け付けていますので、誰がいつ来るかは分かります。ボラン



経済格差が広がり、親の貧困の影響を子どもたちが大人になって引き継がれてしまうことが問題となり、行政が予算を確保して特定の世帯を対象にした学習支援事業が増えました。近年は行政とは別の民間無料塾の活動が全国各地に広がっています。東海地域で学習機会に恵まれない子どもたちに無償で勉強を教える活動をしている「NPO法人東海つばめ学習会」の理事長 柿本知樹さんにお話を伺いました。



ティアの先生はそれを見て生徒が多いから出ようかな、先生が多いから今回はやめようかなと判断されるので、自然の流れに任せています。それで成り立っていますが、先生が足りない場合もあるので、その時は「来れる方いますか？」と声をかけることはあります。教え方も各自の裁量にお任せしています。実際に教えている姿を見てフィードバックすることもないです。ボランティアで勉強を教えたいと応募される人は、家庭教師の経験があるなど、それなりにスキルを持っている人が多いと感じています。

続けていくことで見える変化

教室によって対象年齢は微妙に違います。小学1年生から中学生まで受け入れているところもあれば、小学5年生から高校生まで受け入れるところもあります。ちょっとずつ雰囲気が分かれていて、小学生メインになると細やかに見て、ストレッチを入れたり、などなどをやったりという対応になっています。そちらの雰囲気が好きという人もいれば、年齢層が上がると結構がつり勉強するので、勉強をゴリゴリ教える人もいます。

活動は子どもたちのためになっていると言いつつも、ボランティアは、やっぱり自分に返ってきて得るものが多いので、それを感じた人たちが続けているのだと思います。自己犠牲でボランティアをしていたら継続できません。しんどくなってやめてしまいます。物質的な報酬はお渡しできないので、精神的な報酬にどれだけ価値を見出せるかが、ボランティアを続ける1つの鍵だと思います。



います。その中でも私たちの理念「ひとりでも多くの子どもが望み通りの人生を歩むこと」に共感しましたと言ってくださる人は、長く続きますし、運営としても携わってくれる可能性が高いです。

ボランティア以外にも多くの人から協力をいただいています。高蔵寺の会場が手狭になって、いろいろな人に声かけしたら、駅前にある飲食店を紹介していただき、お昼の時間帯に使わせてもらえるようになりました。美容室で販売しているタオルの売り上げの一部を寄付いただいたり、食材を提供してくれる人がいたり、3店舗の美容室と提携して生徒たちに会員証を作ってくれて、それを持っていくと割引をしてくれます。トレジャーシップ教室では学習後に小学生100円、中学生200円でごはんを食べることができます。「私も大学生になったら教えに来ます」と中学校を卒業した時にメッセージをくれた生徒もいました。宿泊学習をやった時に、以前利用していた生徒が手伝いにきてくれたこともあります。この活動は継続支援なので、続けていくことに対する魅力があります。子どもたちの成長を見ることができ、その変化に対する喜びは大きいですね。



Information

NPO法人東海つばめ学習会

事務所：春日井市勝川町7丁目37番地
ネクシティパレット1階 Room8内

ホームページ：

<https://tokai-tsubame.amebaownd.com/>

お問い合わせ：

<https://forms.gle/pBwgA7vHMWqyj14W9>

貧困と教育格差



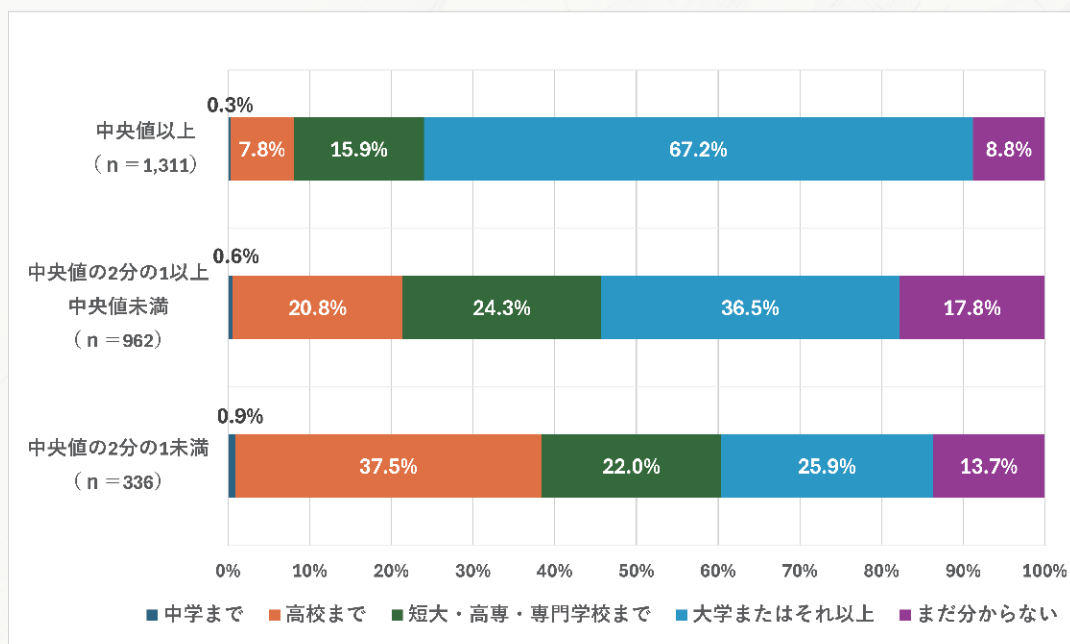
貧困による教育格差は、日本社会にとって深刻な問題となっています。内閣府の「令和3年 子供の生活状況調査」の統計からも明らかのように、家庭の収入によって子どもの教育の選択肢に大きな違いが生じています。これは、憲法26条で保障された「能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利」との乖離を示しています。

この統計では、等価世帯収入の水準が中央値の2分の1未満を「貧困層」、中央値の2分の1以上～中央値未満を「準貧困層」と捉えて分析しています。統計を見ると、世帯収入が低いほど大学進学を希望する割合が低く、高校までの進学を考える割合が高くなるというデータは、経済格差がそのまま教育格差につながっている現実を浮き彫りにしています。これは単な

る統計ではなく、子どもたちの未来の可能性が制約されている現状を示していると言えます。

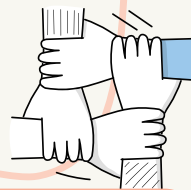
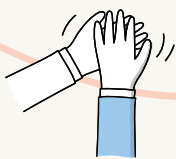
この問題を解決するためには、奨学金制度や教育支援の強化、学習支援の拡充など、社会全体での取り組みが必要です。また、経済的困難を抱える家庭の子どもたちに対して十分な学習機会が提供される仕組みを整えていくことが重要です。しかし、経済格差が根本にある限り、教育格差を完全に解消するのは難しく、結局は家庭の経済状況が進学や教育の質を左右する状態が続いてしまいます。問題を根本的に解決するには、所得の再分配をより公平に行う制度や安定した雇用の創出など、幅広い政策の見直しが求められます。

等価世帯収入の水準別、子どもの進学段階に関する希望・展望



出典:「令和3年 子供の生活状況調査の分析報告書」を基にボラみみより情報局が作成

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12927443/www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/chousa/r03/pdf/print.pdf>



長江 俊一さん

キャリアコンサルタント／
LEGO® SERIOUS PLAY® メソッドと
教材活用トレーニング修了認定ファシリテータ

人々の暮らしに寄り添い、地域や社会の課題解決のために、日々活動している人たちがいます。
困っている人々の声、ご自身の体験や感じたことを丁寧につむいで、よりよい明日を実現しようとしている人たち。
そんな、未来を「つむぐひと」に、ご自身の活動や思いについてご紹介いただきます。

学びが人生を豊かにする。自分で体現し、伝えていきたい

私は名古屋市の小中学校で、職業講話や職業体験、ワークショップなどの出前講師を年間数校で行っています。講師としてのやりがいは、子どもたちが新しい発見をした瞬間や、その体験が成長のきっかけになったと感じる瞬間にあります。子どもたちが何かを理解したり発見したりした時のキラキラした表情を見て、「役立つことができた」と心から感じる瞬間が、私にとっての幸せです。

私が外部講師として果たすべき役割は、普通の学校の授業ではなかなか触れられない「仕事」や「キャリア」に関する子どもたちに伝えることで、自分自身の人生経験をもとに、楽しみながら伝えることを心掛けています。

私は40歳を過ぎてから大学で学び直しました。時代の変化に対する危機感からというもありますが、人生の後半を迎えるにあたり、「いい人生だった」と思えるような生き方をしたいという思いがきっかけでした。学びをインプットするだけでなく、アウトプットの場も必要だと感じ、社会活動にも積極的に関わるようになりました。その経験を通じて、「好奇心と小さな勇気さえあれば、人生はどんな時からでも学び直せる。学びたいと思った時が、その始まりの時だ」と実感しています。だからこそ、私は子どもたちに「今」を大切にしてほしいと願っています。学び直しは、いつからでも遅くないのです。

授業では、将来のキャリアの重要性を伝えつつ、「今」を一生懸命に生きること、その経験を積むことの大切さも強調しています。私自身の中学生時代の経験をもとに、今、みんなが取り組んでいることが将来のキャリア形成につながるんだというメッセージを送っています。



また、LEGO®SERIOUS PLAY®（レゴ® シリアスプレイ®）メソッドと教材を活用したワークショップでは、レゴブロックを使って個々の内面を観察するテーマを与え、子どもたちに自分の考えや思いを作品として表現してもらいます。学校ごとのニーズに合わせてワークを設計していますが、ほとんどの学校では自己理解を目的としたワークショップが求められています。レゴブロックを通して自分を語ることで、子どもたちは自分のことを積極的に話してくれます。子どもたちは自分の意思や考えをしっかりと持ちながらも、それを表現する方法が分からず、悩んでいるように感じます。大人たちの役割は、そんな子どもたちの成長を支援することだと思っています。自分のことを語る機会は学校でも家庭でも少なく、こうした貴重な場をワークショップで提供できることに、大きな価値を感じています。

私の活動が子どもたちの人生に直接的な影響を与えているわけではないかもしれませんが、笑顔や喜び、発見や成長を感じてもらえる場を提供することができれば、それで十分だと考えています。そして、日々の小さな勇気や行動、学びを積み重ねることで、人生はより豊かになると信じています。



メッセージ

何かに興味を持ち、行動することで学びに繋がります。これからも、子どもたちが自分らしさを感じ、学びを深められるようなサポートを続けていきたいと考えています。ワークショップの開催をご希望の方は、ぜひご連絡ください。



連絡先：E-mail syunsyun983@gmail.com

地元企業の社会貢献活動について、各担当者に自社の活動を紹介していただいております。
87回目となる今回は、株式会社大中環境です。

ゴミ拾いウォーキング in 一宮

株式会社大中環境 広報・人事部

株式会社大中環境は、「未来の子どもたちに豊かな環境を残し続ける」というミッションのもと、業界の一步先行くサービスを提供している環境総合サービス企業です。会社の経営理念として、「地球創造・幸せ創造・夢創造」を掲げています。

突然ですが、皆さんにとって幸せとは何ですか？

大中環境では、「幸せ＝成長×貢献」と定義しており、従業員一丸となって社会貢献活動を行っています。

その中でも毎年実施しているイベントが、「ゴミ拾いウォーキング in 一宮」です。ゴミ拾いとスポーツの要素を掛け合わせたイベントで、拾ったゴミの量や質によって順位が決まります。上位者には豪華な景品が贈られるということもあり、毎回、家族連れなどを含む100名近くの方が参加して下さいます。ゴミを拾うことが、自分の心や街をよりきれいにすることにつながっていると思います。



軽トラ1台分のゴミ



株式会社アイ・シー・シーとの共催



市民団体IHOPE(アイホープ)との共催

このような社会貢献活動を継続できている理由は、イベント等を実施するにあたり、従業員や学生のボランティア、企業や市民団体の力添えをいただいているからです。心より感謝申し上げます。

今後も、子どもたちが笑顔になれるイベントやSDGsに関連するイベントを幅広く展開し、社会貢献活動の輪を徐々に広げていきます。

株式会社大中環境

〒494-0012 愛知県一宮市明地字山中25 TEL:0586-69-1988

URL: <https://daichu.jp/> E-mail: k.kato@daichu-env.com (広報・人事部:加藤)

..... 次回は、有限会社シンセイ印刷をご紹介します。

あなたの街のボラスポ紹介！

ボランティアやNPOの情報を得ることができる
あなたの街のボランティアスポットを紹介していきます。

やとみっけベース

4月19日(土)グランドオープン！ みて！きて！やとみっけ！



弥富市市民活動センター「やとみっけベース」では、弥富市地域資源バンク「やとみっけ」を活用し、市民同士のマッチングで様々な困り事を解決します。また、市民活動の成果の展示や物販を行うことや市内で活動する個人・団体・企業の情報を知ることができます。

市民や活動団体などからの相談に対応するほか、市民が誰でも気軽に集い、交流しやすい場所となることで、地域の交流が活性化し、地域への愛着の醸成や新しい市民活動へと拡大していくことを目指しています。

■所在地：弥富市前ヶ須町南本田347番地 弥富まちなか交流館2階

■連絡先：TEL 090-8633-8103 E-mail yatomikke@gmail.com

■開館時間：9時30分～17時 ■休館日：日・月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

弥富市市民活動センター

やとみっけ
ベース



「シビックテック」ってご存知ですか？直訳すると「市民技術」とも言いましょ
うか。市民や行政とIT技術者が協力しつつ、ITをうまく活かして社会課題
に取り組む活動です。2013年にCode for Japanという団体ができた
後、「Code for OO」という団体が日本中に80ほど生まれ、各地
でシビックテック活動に動んでいます。この連載では、名古屋
のシビックテック団体Code for Nagoyaの関係者が、いろ
いろなシビックテック事情をご紹介します。

今号では、大阪公立大学発のベンチャー
企業・takeforest株式会社の代表取締
役である竹森洗征さんから、同社の取り
組みである「ぶち勉」についてご紹介いた
だきます。

負のスパイラル”を断ち切る、 親子のWell-beingとは？

「成績はすべてじゃない」と思っている、子どものテス
トの点数が下がると不安になってしまふ。そんな経験は、多
くの家庭に共通しています。共働きが当たり前となった今、
親子で過ごす時間は減り、子どもの様子が見えにくくなる
中で、親は知らず知らずのうちに不安を募らせてしまいま
す。そしてその不安が、子どもへの干渉やプレッシャーと
なって表れ、子どもは自信を失い、学ぶ意欲が低下。不登
校やその予備軍につながる、いわゆる“負のスパイ
ラル”が起こるのです。

この悪循環を断ち切るためには、成績だけにとらわれ
ず、親子のWell-being（より良く生きること）を支える仕組
みが必要です。子どもが主体的に学び、親も安心して見
守ることができる関係をつくること。それが、「ぶち勉」の目
指す社会です。

“探求”と“教科教育”。どちらかではなく、どちらも。

近年は、実社会に生きるスキルを育てる“探求型学習”

が注目されています。し
かし、教科教育は不要
になるわけではありませ
ん。点数や順位にこだ
わる必要はなくても、学
ぶことそのものには価値
があります。一見ムダに
見える知識が、将来思
わぬ形で生きてくるこ
ともあるからです。だか
らこそ、探求と教科教育
を切り離すのではなく、
その両方をつなぐ学び
の場が大切です。

「ぶち勉」のプラットフォーム画面



「ぶち勉」のサービス概念図

1問を通して学びの循環



“教科教育×探求”で親子のWell-being

子どもが教え合い、学び合う「ぶち勉」

「ぶち勉」は、1問10分から始められる“子ども同士の教
え合いプラットフォーム”です。「この1問ができる子」が先生
となり、学年や地域を越えて教え合う仕組みが特徴です。
教えることでお小遣いが得られる仕組みもあり、家庭の経
済的負担を抑えつつ、子どもの学びへの意欲を高めること
ができます。また、学びの過程を可視化できる仕組みもあ
り、親も安心して子どもを見守ることができます。

教科の学びを通じて、人とつながり、感謝され、自信
を育む。「ぶち勉」は、“教科教育×探求”で親子の
Well-beingを実現する、新しい学びの形のサービスです。

「takeforest株式会社」と「ぶち勉」について

「ぶち勉」は、2023年に竹森洗征が設立した、大阪公立大
学発のベンチャー企業・takeforest株式会社によって運営さ
れています。

当社は、自信や思考力といった“人の地下茎”を育み、竹のよ
うにしなやかで強く、そして「をかしさ(=変さ・面白さ／古語)」
を解き放つ「タケ型人間」を育てることを理念としています。

URL: <https://takeforest.com>



ボランティア情報

ホームページにも情報満載！
http://www.boramimi.com

ボランティア初めの一步 大切なマナー&ルール

- さまざまな状況により、変更・中止となる場合もあります。必ず事前に各団体にご連絡ください。
- 希望のボランティア先へ連絡するときは、まず名前を名乗って、用件（ボランティアに参加したい・詳しく聞きたい）を正確に伝えましょう。
- ボランティアへの参加当日、急用で参加できなくなったときは、必ず電話連絡を。また、約束の時間は守りましょう。



「学習支援・子ども食堂サポーター」募集



勉強を教えるのではなく一緒に答えにたどり着くような、どなたにでもできるサポートです。学び直し、教育や福祉に関心のある方におすすめです。併設の子ども食堂のお手伝いも募集。様々な大学の仲間と一緒に子どもたちを応援しましょう！※「尾張旭市まちづくり活動貢献学生認定制度」の対象

青少年 生涯学習 愛知県 尾張旭市

- 日 時：毎週土曜日8:30～16:30
- 場 所：多世代交流館いきいき 尾張旭市稲葉町1-41-1
- その他：下記問合せ先、2次元コードよりお申込みください。地下鉄「藤が丘」、名鉄瀬戸線「尾張旭」より送迎有。ボランティア活動証明書発行。交通費実費支給、子ども食堂の昼食付き。

NPO法人しみんシップnet

担当：伊藤
TEL:070-3144-6485
E-mail:shiminiship@gmail.com



パソコンボランティア養成講座



月1回開催される「初心者向けパソコン相談室」のパソコン相談員養成講座を開催します。「たった3日であなたもパソコン相談員になれる『パソコンボランティア養成講座』」パソコンが好きで、パソコンボランティアに興味がある方のご参加、お待ちしております。

生涯学習 情報化社会 名古屋千種区

- 日 時：6月2日(月)13:30～15:30
6月9日(月)13:20～16:00
6月16日(月)13:30～15:30
- 場 所：千種生涯学習センター 名古屋千種区振甫町3-34
- その他：2次元コードを読み取り、養成講座申込みフォームから、お申込みください。【参加費等】500円【持ち物】筆記用具【申込〆切】5月23日(金)【定員】20名

千種パソコン支援ボランティア

担当：戸崎
E-mail:chikusapasobora@gmail.com



リサイクルで海外協力



全国から寄せられた「道具」の仕分け、手入れ、発送準備などを行います。経験のない方でも気軽に参加できます。お子様連れの参加も歓迎です。

国際 環境 愛知県 豊田市

- 日 時：6月21日(土)13:00～16:00
6月22日(日)9:00～15:00
- 場 所：豊田市旭八幡町敷田173-1
- その他：電話・FAX・Eメールでお申込みください。参加費は参加形態により異なりますので、事前にお問い合わせをお願いします。車での参加が基本となりますが、車で来ることができない方はご相談ください。【持ち物】汚れても良い服装、軍手など【申込〆切】6月17日(火)

自立のための道具の会・TFSR Japan

担当：鈴木
TEL:0565-68-3637(8:00～18:00)
FAX:0565-68-2817 E-mail:tools@tfsr.jp



日本語教室「にほんごひろば」ボランティア募集



豊田市在住のほとんど日本語が話せない外国の方を対象とした日本語教室です。学習者は「休みの日にすること」「旅行の思い出」などのトピックについて会話をすることで日本語を身に付けます。外国の方との会話を楽しみながらお互いの文化や習慣、伝わりやすいコミュニケーションを学ぶことができます。

国際 青少年 愛知県 豊田市

- 日 時：金・土・日曜日 教室によって異なります。ホームページをご確認ください。
- 場 所：豊田市内5教室及びオンライン教室
- その他：お問い合わせは、電話またはEメールにてお気軽にご連絡ください。15歳以上(高校生以上)可。外国語が話せなくても大丈夫！毎回参加しなくてもOKです！【資格、条件等】TIAボランティア登録(無料)が必要になります。

豊田市国際交流協会(TIA) 担当：小野

TEL:0565-33-5931(月曜日を除く9:00～17:00)
FAX:0565-33-5950
E-mail:tia-system@hm.aitai.ne.jp



人形劇団紙風船ボランティア募集



障害者

名古屋市
港区

身体に少しだけハンディのあるメンバーが中心の生活介護グループです。活動内容は人形劇の稽古や公演、宣伝活動、グッズの制作、また季節ごとに壁紙づくりなどもしています。話好きで笑いの絶えないデイルームに、見学にいらしゃいませんか？お出かけもしますのでその際のお手伝いも大歓迎です！

- 日 時：火曜日～土曜日10:45～15:00(活動内容によっては変動あり)
- 場 所：人形劇団紙風船デイルーム 名古屋市港区木場町9-24
- その他：電話、FAX、Eメールでお問い合わせください。参加時は手作り給食をご提供します(無料)。申し訳ありませんが、交通費はご負担ください。【持ち物】タオル、水分

認定NPO法人愛実の会 人形劇団紙風船 担当:服部
TEL:052-693-5897(火～土9:00～17:00)
FAX:052-691-7889
E-mail:ami_kamifuusen@yahoo.co.jp



国際交流ボランティア募集



国際

名古屋市
西区

日本語を勉強している外国人と、日本語でお話して下さるボランティアを募集しています。外国人とお話してみたい方、日本語教師の勉強をしている方、国際交流をしたい方、まずは気軽に参加してみてください。特別なスキルは必要ありません。どなたでも大歓迎です。

- 日 時：毎週日曜日10:30～12:00 ※第5日曜日はお休みです
- 場 所：名古屋市西生涯学習センター 名古屋市西区浄心1-1-45
- その他：Eメールでご連絡ください。
【最寄り駅】地下鉄鶴舞線「浄心」徒歩3分

にしにほんごの会

担当:犬飼・増田
E-mail:nishinihongo@gmail.com



小中学生の居場所ボランティア募集



青少年

名古屋市
中村区

小中学生の居場所づくりをサポートしてくれるボランティアを募集中です。日常生活を充実させる体験を大事にしています。子どもと一緒に公園を走り回れる方！子どもたちの「お兄さん・お姉さん」的な立場になって、一緒に安心できる居場所づくりをしましょう。ぜひお気軽にお問合せください！

- 日 時：土曜日9:30～16:00、月曜日16:15～22:00
スケジュールはお問い合わせください。
- 場 所：名古屋市中村区靖国町1-94
- その他：必ず事前にEメールにてお申込みください。子どもたちの安心安全の場を創るために、ご所属等(大学名・学部名・学年、社会人の方はご職業等)を教えてください。【資格、条件等】大学生、大学院生、社会人

NPO法人ささしまサポートセンター

こども支援担当:伊藤
E-mail:office@sasashima.info



障がい児・難病児に水の楽しさを伝えよう！



障害者

スポーツ

名古屋市内

知的障がい児・身体障がい児・難病児・きょうだい児へ、生涯スポーツとして取り組んでもらえるよう活動しています。プールでのルール、周りの人との共生、仲間や友達作り、プールの楽しさ。1人でも多くの子が、プールを楽しみながらパラリンピックも目指せるよう楽しく活動しています。

- 日 時：土曜日18:00～20:00、日曜日10:00～12:00
- 場 所：瑞穂スポーツパーク温水プール、日本ガイシスポーツプラザ50mプール、昭和スポーツセンターほか
- その他：事前にEメールにてご応募ください。その後、面談・研修をさせていただきます。【資格、条件等】100m以上泳げること、暴力・暴言ほか各種ハラスメントを行わないこと、障がい児と対等な立場に立てること【定員】10名

いるかきょうしつ

担当:加藤
TEL:080-3617-8865(月・水・金13:00～17:00)
E-mail:iruka@miraii.org



NPO法人・一般社団法人
設立・会計・税務等の支援をします
お気軽にご相談ください

サカエ税理士法人 税理士・公認会計士 遠島敏行
名古屋市中村区黄金通2-54 TEL:052-482-6600
URL: <http://www.sakaetax.com>
<http://www.seturitu-unei.com/>
E-mail: info@seturitu-unei.com

地域に根差す 社会貢献企業へ

2021年2月 SDGs宣言



ニーズに応える印刷会社

デジタルコンテンツ・AR(拡張現実)等

オフセット印刷

商業印刷全般

セキュリティ印刷

金券、商品券、証明書等

防災マニュアル・飲料水

菱源株式会社

<https://hishigen.co.jp>

〒490-1144 愛知県海部郡大治町西條松下75
TEL:052-444-2323 FAX:052-444-2636
【東京営業所】TEL:03-5577-5686

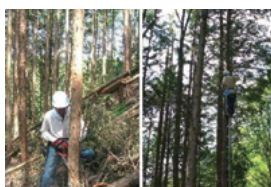
●菱源株式会社は「ボラみみ」を応援しています。

ISO14001:
2015認証取得



気軽に
お問い合わせ
ください

岐阜県御嵩町での森林ボランティア活動



岐阜県御嵩町にあるヒノキ林の枝打ち・間伐を、月に1回(第2土曜と翌日の日曜)に行います。また、木工や製紙原料としての出荷など、間伐材の利用にも取り組みます。御嵩町は、名古屋地区の水源となっている木曽川の上流にあります。私たちの「水源の森」の整備にぜひ力を貸してください。

環境

岐阜県
可児郡

- 日 時: 5月10日(土)・11日(日)10:00~16:00ごろ
(いずれか1日だけの参加も歓迎です)
- 場 所: 御嵩町 中公民館(なかつこうみんかん)駐車場集合
岐阜県可児郡御嵩町中2171-1
- その他: Eメールにてご連絡ください。
【参加費等】保険費用として100円
【持ち物】軍手、山歩きのできる服装(長袖)、昼食
【子ども連れでの参加】可能【定員】30名・先着順

みたけ・500万人の木曽川水トラスト

担当: 市村

TEL: 052-735-5453 (平日9:30~18:00)

E-mail: mitake500npa@yahoo.co.jp



宮の渡し公園及び堀川護岸清掃と水質浄化活動



宮の渡し公園及び堀川護岸清掃でのゴミひろい。堀川浄化のための人工干潟、葦原のメンテナンス作業です。お子様連れの方も歓迎です。公共交通機関をご利用下さい。定員50名です。50名を越える場合は事前にご連絡下さい。

環境

まち
づくり

名古屋
市
熱田区

- 日 時: 5月18日(日)10:00~、6月15日(日)10:00~
- 場 所: 宮の渡し公園/堀川周辺 名古屋市熱田区神戸町
- その他: 参加希望日、お名前、団体/個人、電話番号、メールアドレスを明記の上FAX、Eメールにてお申込みください。
【持ち物】軍手、汚れても良い服装と虫よけ対策(長袖・長ズボン)【申込〆切】実施日の3日前まで

NPO法人堀川まちネット

担当: 川口

TEL/FAX: 052-217-8106 (15:00~19:00)

E-mail: horikawa-seisou2000@horikawamachi.net



生涯学習相談員ボランティア養成講座



生涯学習の相談やイベントに取り組む「NPO法人生涯学習ネットワーク中部」が主催する講座です。広く市民の皆さまのお役に立つ「生涯学習相談員」ボランティアとして活動するための講座です。皆さまの応募をお待ちしています。

生涯
学習

まち
づくり

名古屋
市
中区

- 日 時: 5月27日(火)~7月22日(火)の毎週火曜日13:30~15:30
(全9回)※初回はオリエンテーションのため13:15~
- 場 所: イーブルなごや1階 第1・2集会室 名古屋市中区大井町7-25
- その他: 各区の生涯学習センターや図書館等で配布中のチラシ裏面の申込書にご記入のうえ、FAXまたは郵送にてお申込みください。お問合せは、生涯学習ネットワーク中部まで。【参加費等】4500円【申込〆切】5月13日(火)【定員】20名・先着順

NPO法人生涯学習ネットワーク中部

担当: 加藤

TEL/FAX: 052-321-1579 (10:00~16:00)



子どもと遊ぶボランティア募集



名古屋市内の小学校や施設で子ども向けに工作やレクゲームを行っています。「子どもと遊ぶのが好きな大人の集まり」という感じでマッタリと活動しています。子どもと遊ぶのが好きな方、学校の先生を目指している方には子どもとふれ合えるいい機会が得られます。ぜひ一度、体験にお越しください。

青少年

名古屋市内

- 日 時: 基本月1回(第3土曜日)13:30~15:30 ※例外もあり
- 場 所: 名古屋市西区浮野小学校トワイライトルーム及び生涯学習センターなど
- その他: わいわいボランティアホームページの「ボランティア募集」欄よりお申込みください。最近の活動はフェイスブックに更新されています。ご質問はEメールにてお願いします。

わいわいボランティア

担当: 村山

E-mail: yy_volunteer2007@yahoo.co.jp



あなたの
ほしい情報が
メールで届きます

団体から
ボランティアの
お誘いが来ます

やりたい活動が見つかる
ボランティア登録サイト

みみライン

国際芸術祭「あいち2025」ボランティア募集！



3年に一度の国際芸術祭「あいち2025」の運営を支えてくださるボランティアを募集します。アートに興味のある方、鑑賞やサポートをしたい方、人と接するのが好きな方など、ご応募をお待ちしています。活動内容は来場者の案内や誘導、対話型鑑賞手法を用いた来場者の鑑賞サポートなどです。

文化 まちづくり

名古屋市、瀬戸市

- 日 時：9月12日(金)～11月30日(日)
- 場 所：愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか
- その他：「あいち2025」公式サイトボランティア募集ページにある登録フォームからお申込みください。詳細は「あいち2025」公式サイトをご確認ください。
【申込〆切】6月3日(火) 【定員】1000人程度

国際芸術祭「あいち2025」ボランティア事務局

担当：三嶋・田村
TEL:052-961-4561(平日10:00～17:00)
E-mail:geijyutsusai2025v@triennale-aichi.com



演奏を楽しみながらボランティア！



障害のある人達が手作りしたケーキ&珈琲で、生の演奏とおしゃべり。ウェイトレスをやって下さるボランティアを募集しています。

障害者 まちづくり

名古屋市西区

- 日 時：毎月第1土曜日12:00～16:00
今後の予定…5月3日(土)、6月7日(土)他
- 場 所：サロンうたさと 名古屋市西区歌里町147
- その他：電話にてお申込みください。【最寄り駅】地下鉄鶴舞線「庄内緑地公園」徒歩約15分、市バス「歌里町」「山田東中学校」それぞれ徒歩約5分 【定員】2～3名

社会福祉法人エゼル福祉会

担当：大川
TEL:052-505-6082(平日9:00～17:00)
E-mail:convini@ezeru.or.jp



誰も置きざりにしない社会をめざして



10回目となる「なごやボランティア楽集会」。今回は「誰も置きざりにしない社会をめざして～暮らしを支える現場から～」をテーマに、子どもやその家族の暮らしを支える活動をされている方々からお話をお聴きします。テーマに興味がある方、ボランティア活動に興味がある方、ぜひご参加ください。

青少年 人権平和

名古屋市中区

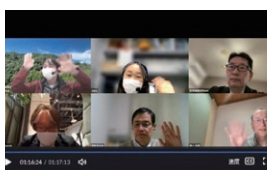
- 日 時：(1)6月22日(日)(2)7月12日(土)13:00～16:30
- 場 所：名古屋能楽堂 名古屋市中区三の丸1-1-1
- その他：お電話、または申込みフォーム(二次元コード)からお申込みください。【参加費】無料【子ども連れでの参加】可能【申込〆切】(1)6月6日(金)、(2)6月27日(金)
【定員】各回50名・先着順

なごやボランティア楽集会開催委員会

事務局：名古屋市社会福祉協議会 担当：内藤
TEL:052-911-3180
FAX:052-917-0702



NPO活動の動画編集ボランティア募集



NPOの社会活動を紹介するYoutubeチャンネル「ボラちゃんねるず」を配信しています。動画の企画・撮影・編集・配信などに関わってくれる方を募集します。活動を通じて、NPO活動をしている素敵な人たちに会えます。動画編集が得意な方も、初心者の方も一緒に学びながら活動しませんか！

団体支援 まちづくり

オンライン・名古屋市中区

- 日 時：月に1回程度のミーティング 不定期の動画配信
- 場 所：オンラインZoomもしくはストリームヤード
ボラみみ事務所 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6階
- その他：活動に関心があり、一緒に活動してみたいと思われる方はぜひお気軽にご連絡ください
【資格、条件等】Zoomミーティングに参加できること
【子ども連れでの参加】可能

NPO法人ボラみみより情報局

TEL:052-228-7824
(月～土曜日13:00～18:00)
E-mail:office@boramimi.com





会 員 募 集 中 !

『ボラみみ』の発行・配布費用は、会員のみなさまの会費に支えられています。ボラみみの活動に賛同し、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ご連絡ください。

TEL:052-228-7824 E-mail:office@boramimi.com





新規・継続会員登録の方々 (順不同)

■法人正会員：

- 社会福祉法人さくらんぼの会様

■団体正会員：

【継続】●視覚障害者の情報環境を考える会様

- 特定非営利活動法人しみんシップnet様

■個人正会員：

【継続】●横田 進様 ●森崎 典子様 ●下野 恵子様

- 加藤 須陽人様 ●廣井 修平様

■法人賛助会員：

【継続】●学校法人系菊学園 名古屋調理師専門学校様

■団体賛助会員：

【継続】●日本ニュースポーツ研究会様

- 特定非営利活動法人ドリーム様 ●シュヨーネット様

■個人賛助会員

【継続】●深谷 明彦様 ●大久保 雄登様 ●筒井 隆様

- 吉川 典子様 ●匿名2名

■寄付

- 筒井 隆様 ●下野 恵子様 ●匿名30名



「ボラみみ」配布先

ー詳細はホームページにて掲載中！ー

- WEBより

<http://www.boramimi.com/haihu/>

- 携帯より



QRコード



みんなの声

●特定非営利活動法人堀川まちネット様

ボラみみ掲載の継続による信頼と他への紹介もあるため、広報として重要視している。お陰様で、かなり定着してきました。いつも、丁寧なご対応感謝しております。

●FACE・TO・FACE様

ボランティア数が不足していて、活動に支障が生じている。掲載ボランティア団体数を増やしてください。

●愛実の会 人形劇団紙風船様

やはり、ボランティアさんのお力が必要な時事もあるため掲載してすぐに参加依頼があり、助かりました。随時お願いになるとは思いますが宜しくお願い致します。

●日進市にぎわい交流館

広く周知したい場合にご協力いただけるとありがたいです。



編集後記

日本社会が抱える厳しい現実に向き合う中で、その解決への道のりの長さと困難さを痛感しました。しかし、学習支援を通じて未来を切り開こうとする人々の努力に触れることで、大きな希望を感じました。ボランティアの姿勢や支援の広がりからは、教育が単なる知識の習得ではなく、人生を切り開く力となることが伝わってきます。今後も多くの人々の支えによって、より公平な学びの場が広がり、子どもたちが自らの可能性を最大限に活かせる社会になることを願っています。



次号予告

次号のテーマは「社会のミカタ」。

2025年7月1日発行予定です。お楽しみに！

特定非営利活動法人
ボラみみより情報局

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F TEL 052-228-7824 FAX 052-228-7834
E-mail office@boramimi.com URL <http://www.boramimi.com/> 代表 織田元樹 印刷 菱源株式会社

センター主催講座・イベントのご案内

5/21 [水] NPO講座「NPO法人設立のしかた編」 (受付中)

「NPO法人ってなに?」「どうやってNPO法人を設立するの?」など、NPO法人の設立前に準備するものや書類作成のポイントを学べる講座です。申請書類をチェックしているスタッフが説明します。
NPO法人の設立を考えている方はぜひどうぞ。

■定員: 30名 ■参加費: 500円 ■講師: 市民活動推進センター職員

6/12 [木] ボランティア入門講座 ～ボランティアへのはじめの一歩～ 今回のお題は、「災害・防災」 (5月13日受付開始)

「ボランティアをしたいけど、どうしたらいいの?」「自分にできるボランティアってなに?」そう思っている方にオススメのボランティアのスターター講座です。経験豊富なボランティアが活動のイロハを語ります。自分に合ったボラを探すチャンスをお見逃しなく! 今回は、各家庭の家具転倒防止対策を行っている、ボランティア団体の代表の方のお話です。

■定員: 30名 ■参加費: 500円 ■講師: 市民活動推進センター職員
■ゲスト: 黒木 一文氏(家具転倒防止ボラみずほ)

講座受講のお申込みは、窓口・電話・FAX・電子メールにて受付けます。電子メール・FAXでお申込みの際は、**講座名・氏名・電話番号・FAX番号・所属団体・参加動機**をご記入ください。名古屋市内に在住、在勤、在学の方、または名古屋市内で活動している(活動する意思のある)個人・団体を対象とします。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

※定員に達した時点で、締め切らせていただきます。ご了承ください。

問合せ
申込先

名古屋市市民活動推進センター
住所: 〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号
ナディアパークデザインセンタービル6階
電話: 052-228-8039 FAX: 052-228-8073
電子メール: npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp
URL: <https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/>



1・2月の設立認証NPO法人



名 称	所在区	主な活動分野
セカンドオピニオン提供支援機構	中区	保健・医療・福祉
スポーツ普及協会	天白区	学術・文化・芸術・スポーツ
育ちあいネット	守山区	子どもの健全育成
NaNairo	中村区	保健・医療・福祉
名古屋つばめ塾	瑞穂区	社会教育
アクトエリア	中区	NPOの援助
名古屋福祉事業支援友の会	緑区	保健・医療・福祉

2月末現在の所管法人数

★ 認証法人数: 881法人 認定法人数: 31法人 特例認定法人数: 2法人

スタッフの
つぶやき

スタッフ: 木村

推進員の木村です。早いものでセンター勤務も5年目となりました。勤務開始後に始めた自転車通勤も5年目となり、体力だけは向上しました。以前は息を潜めてじっとしている生態系でしたが、今ではフットサル、スノーボード、筋トレ等、運動には事欠きません。但し、運動センスがないので、全般的にスタミナはあるのに、技術力に乏しいという……(;∀;) フレイル予防も兼ねて頑張ります!



イラスト協力: 加藤舞美

NPO法人向け 伝言板

◆ 事業報告書等提出書類の最終チェック ◆

NPO法人は、事業年度終了後3か月以内に事業報告書等の書類を所轄庁に提出することになっています。

提出書類の様式は、名古屋市民活動推進センターホームページからダウンロードできます。



書類名	チェック項目	必要部数
<input type="checkbox"/> 事業報告書等提出書	<input type="checkbox"/> 名古屋市の様式を使っている <input type="checkbox"/> 法人名、法人住所、代表者、法人連絡先、担当者、担当者連絡先の記載がある ※法人書類の法人印の押印は省略することができます。	<p>全て1部 ※公開用の副本(2部)は、提出不要です。</p> <p>〈注意〉</p> <p><input type="checkbox"/> 個人印や口座情報、電話番号、車両ナンバー、生年月日などの、個人が特定できる情報は記載しないでください。</p> <p><input type="checkbox"/> 原本証明や捺印、監事の確認印も押さないでください。</p>
<input type="checkbox"/> 事業報告書	<input type="checkbox"/> 法人名、事業年度の記載がある <input type="checkbox"/> 事業の実施に関する事項の記載がある <input type="checkbox"/> 定款に「その他事業」がある場合、実施の有無について記載がある <input type="checkbox"/> 会議の開催に関する事項(総会・理事会)の記載がある	
<input type="checkbox"/> 活動計算書(※)	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 期間は、事業年度の始まりから終わりの年月日になっている <input type="checkbox"/> 定款に「その他の事業」がある場合、区分して記載している	
<input type="checkbox"/> 貸借対照表	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 日付は、事業年度の最終日現在になっている	
<input type="checkbox"/> 財産目録	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 日付は、事業年度の最終日現在になっている	
<input type="checkbox"/> 年間役員名簿	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 期間は、事業年度の始まりから終わりの年月日になっている <input type="checkbox"/> 全員の氏名にフリガナを振っている <input type="checkbox"/> 前年度内に役員をした人全員(途中で辞めた役員、途中から入った役員も含む)の記載がある <input type="checkbox"/> 就任期間の記載がある <input type="checkbox"/> 報酬を受け取った期間の記載がある 受け取っていない場合は「なし」になっている	
<input type="checkbox"/> 社員名簿	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 日付は、事業年度の最終日現在になっている <input type="checkbox"/> 10人以上の記載がある	

提出前の事前確認に
ご利用ください

事業報告書等提出書類は、郵送、窓口またはオンラインで提出してください。

郵送または窓口で提出する際に受け取り確認が必要な場合は、事業報告書等提出書の控えもあわせて提出してください。郵送の場合は、返信用封筒(切手を貼り、宛先を記入したもの)を同封してください。書類確認後、受付印を押印した控えを返送します。

※収支計算書で提出している団体は、活動計算書への切り替えをお願いします。

柳生 淳樹さん × 石田 あかりさん 対談 市民活動推進センターのシンボルマーク・キャッチコピー・ デザインシステムに込めた想いをうかがいました

シンボルマーク 市民活動は、市民、人が主役になるので、人を入れることにこだわりました。センターの事業や市民活動についてのお話を聞いたときに、市民活動は植物の芽みたいだなと感じたんです。初めはすごく小さな力かもしれないけど、それがやがて成長して、地域を動かすような大きな力を持つようになると考えています。なので、天辺の芽は市民活動、まずはその小さな芽をたくさん生やしてほしいという願いを込めました。市民がきらりと輝く、希望や理想に向かって積極的に活動することで、いきいきとして活気のある名古屋市になってほしいと思います。

キャッチコピー 印象に残るように、リズムを意識しています。「ちから」と「なごや」をひらがなにしたのは、やわらかいイメージを持たせ、子どもたちや外国の方にもわかりやすいようにと考えて工夫しました。



石田 あかりさん
(名古屋市立大学人文社会学部2年)



柳生 淳樹さん
(デザイナー・名古屋造形大学非常勤講師)

元ロゴとの組み合わせ 従来のロゴタイプは、今から10年以上前に大型サインやパンフレット作成に付随してデザインしたもので、公共サービスとしての親しみやすさやわかりやすさに重点を置いて作成しています。新しいシンボルマークとキャッチコピーについては学生公募で決定され、名古屋市民が市民活動の主役であることを的確に表現しながら、従来のロゴタイプとの組み合わせもよく考慮されています。

デザインシステム 原案のデザイン化とデザインシステムの構築の際も、明確な着地点に向かってスムーズに作業することができました。ロゴタイプ、シンボルマーク、キャッチコピーが一体となり、より象徴的でメッセージ性を持ったデザインシステムが完成しました。センターを通じた市民活動が、今後より力強く発信されることを確信しています。



小学校訪問授業(中川小学校で災害ボランティアについて)

2月13日、港区の中川小学校で、災害ボランティアの活動や避難所での生活を学ぶ訪問授業を行いました。名古屋みなと防災ボランティアネットワーク代表の高崎賢一さんが、伊勢湾台風の被災体験を語ったほか、市大学生消防団・名古屋市立大学分団の8人と、支援物資運搬のバケツリレーの早さを競ったり、避難所で役立つ新聞紙製スリッパで歩く体験をしました。小学生からは、「災害ってこわいと思っていたけど、みんなで力を合わせれば、乗り越えていけると思いました」という声も聞かれ、3年生55人に災害ボランティアに対する理解を深めてもらうことができました。



なごや 市民活動通信

2025
5・6月号
No.117
無料



市民のちからで
いきいきなごや

市民のちからでいきいきなごや

名古屋市

市民活動 推進 センター



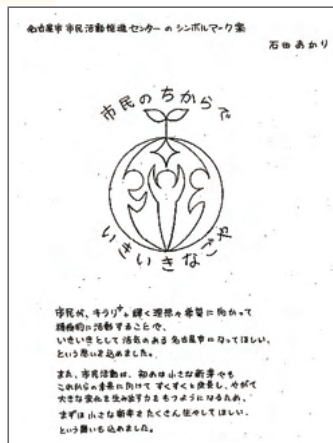
デザイナー
柳生 淳樹さん

名古屋市立大学
石田 あかりさん

当センターの新しいロゴとシンボルマーク



元ロゴマーク



新シンボルマーク・
新キャッチコピーの案

市民活動推進センターの新しい シンボルマークができました！

令和6年度、名古屋市立大学の学生有志に、当センターのシンボルマークとキャッチコピーを複数数案してもらいました。

その中から、市民の投票によって最も得票を得た、石田あかりさんの案を、当センターの開設当時からのロゴマークと融合させ、新しいロゴのデザインシステムができました。

元のロゴマークをデザインされ、今回のデザインシステム化も手掛けたデザイナー柳生淳樹さんと石田あかりさんに、デザインに込めた想いを対談形式でお聞きました（次ページ）。

※この冊子は、「なごや市民活動通信」と、「未来をつむぐライフマガジン『ボラみみ』」の合冊です。

■発行日：2025年5月1日

●「なごや市民活動通信」のお問い合わせ

■発行部数：9000部

名古屋市市民活動推進センター TEL 052-228-8039

●「ボラみみ」のお問い合わせ

特定非営利活動法人ボラみみより情報局 TEL 052-228-7824

印刷：愛源株式会社 ©名古屋市市民活動推進センター 2025 禁・無断転載